



Figure - 27 Total length composition of larvae of Prognichthys zaca or P. sealei.

春期から秋期に出現し、出現盛期は夏期、東支那海域を除く全海域に出現した。出現個体の全長組成は図-27に示す通りである。出現個体の全長範囲は4.3-8.1 mmでモードは6.1-8.0 mmにある。出現点の表面水温範囲は21.9-29.3°Cで出現個体数加重平均水温は27.4°C、出現点数加重平均水温は26.9°Cである。

Hirundichthys oxcephalus (BLEEKER) ホソアオトビ (14回出現、31尾)

四季を通して出現し、出現盛期は冬期から春期で他のトビウオ科の魚種が夏期に出現盛期があるのに対してホソアオトビは逆に低温期の冬期から春期になっている。そこで出現点の表面水温をみると水温範囲は21.1°Cから30.1°Cで広範囲におよんでいるが、出現個体数加重平均水温は23.9°Cである。他のトビウオ科の魚種の多くは27°Cに個体数加重平均水温を持っているがホソアオトビは低い。すなわち他種に比べていくぶん高緯度地方に主分布域を持つ種であると言える。出現個体の全長範囲は4.3-36.8 mmで、夏期に大型の個体が出現する傾向にある。

Hirundichthys speculiger (VALENCIENNES) ニノジトビウオ

(10回出現、25尾)

夏期から冬期に出現し、出現盛期は夏期、出現海域はA定線と東支那海域を除くすべての海域で出現個体の全長範囲は3.0-38.8 mmである。出現点の表面水温範囲は22.7-28.8°Cで出現個体数加重平均水温は27.9°Cである。

Exocoetidae gen. spp. トビウオ科種不明 (18回出現、32尾)

四季を通して出現し、出現個体の全長範囲は3.0-30.0 mm。ここでトビウオ科種不明としたのはもちろん同一種のみでなく多種含まれており、種の固定ができなかった破損個体および前期に上げられない種不明の幼稚仔魚である。

20. Fistulariidae ヤガラ科 (1回出現、1尾)

Fistularia villosa KLUZINGER アオヤガラ (1回出現、1尾)